

研究課題：片眼性先天眼瞼下垂の視機能に関する後ろ向き研究

1. 研究の目的

先天眼瞼下垂では、屈折異常、不同視、斜視を合併し 1/3 の症例で弱視を生じる可能性があると考えられています。特に、片眼性では反対眼が正常なために下垂眼の弱視リスクが高くなります。当院のこれまでの片眼性先天眼瞼下垂の視力発達や弱視治療の経過を調べて、適切な弱視治療介入時期や治療方法について検討します

2. 研究の方法

研究デザイン：診療録を用いた後方視的研究

3. 研究期間

倫理委員会承認後から 2025 年 3 月 31 日までを予定しています。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

2009 年 1 月から 2018 年 12 月の期間に当院で片眼性先天眼瞼下垂と診断された方の：①初診時の月齢、②性別、③患眼、④視力、測定方法、屈折値（遠視、近視、乱視度数）、⑤眼瞼下垂の程度、⑥弱視治療の種類、⑦治療開始時の月齢、⑧治療終了時の月齢、⑨斜視の有無、⑩最終視力と到達月齢を情報として収集します。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

研究成果は統計解析などの処理を施し、個人を特定できない状態として学術集会や医学雑誌上で公表します。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター
実施責任者：眼科科長 神部 友香
実施分担者：眼科非常勤 和田 萌子
個人情報管理者：眼科非常勤 真弓 京

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲

内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の
代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2024 年
11 月 30 日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益
が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）